Annual Report 2010

2010年度年次報告書

日本イラク医療支援ネットワーク
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24
第二大島ビル303　☎03-6228-0746

目次

事務局長よりご挨拶　．．．2
JIM-NETのあゆみ　．．．3
組織体制　．．．3
JIM-NET参加団体　．．．4
2010年度事業報告　．．．5〜7
2011年度事業方針　．．．7〜8
会計に関する報告　．．．9〜12
【2010年度貸借対照表】
【2010年度JIM-NET決算書】
【2011年度JIM-NET予算書】
【監査報告書】

監　査　報　告　書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の 2010 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支決算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of JIM-NET as of March 2011 and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal Year 2010 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2011年5月30日

監事：栗原 郁

監　査　報　告　書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）の 2010 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、また収支決算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of JIM-NET as of March 2011 and acknowledged that revenue, expenditures for the Fiscal Year 2010 and the balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2011年5月30日

監事：栗原 郁

2011年度 JIM-NET 予算書

収入の部

項目	2010決算額	2011予算額	内訳
会費	¥5,723,160	¥6,600,000	
一般寄付	¥6,775,234	¥5,000,000	収益の10%をOHに計上
東日本大震災支援募金		¥15,000,000	5月17日現在で¥12,058,394
チョコ募金	¥60,472,780	¥69,070,000	
構成団体拠出金	¥31,248,912	¥19,200,000	薬品支援、JIM-NET会議、難民支援、事務運営などへの拠出金
物品・書籍販売	¥776,604	¥500,000	
絵画展収入	¥252,400	¥300,000	
雑収入	¥219,650	¥300,000	イベント収入・情報提供料など
受取利息収入	¥2,915	¥3,000	
収入計	¥105,471,655	¥115,973,000	

※内訳にあるOHとは事務運営費（人件費、交通費、通信費、荷造り運賃などを指す）

支出の部

項目			2010決算額	2011予算額	内訳
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥2,970,448	¥4,080,000	
		機材消耗品		¥4,250,000	
		院内学級支援	¥458,099	¥408,000	
		感染症対策	¥5,607,846	¥3,754,000	
		管理費	¥4,010,603	¥5,680,000	
	バスラ	医薬品支援	¥10,483,813	¥10,200,000	
		研修	¥740,544	¥502,000	医師の日本での研修
		患者支援	¥4,534,820	¥4,590,000	貧困者交通費、ｲﾗﾝでの治療
		院内学級支援	¥490,248	¥553,000	誕生パーティ、遠足、文具、美術講師費、展示会費用等
		管理費	¥1,345,076	¥1,403,000	
	バグダッド	医薬品支援	¥19,976,423	¥18,360,000	
		機材消耗品	¥4,534,579	¥2,125,000	
		患者支援		¥468,000	
		院内学級支援		¥825,000	
		管理費	¥947,038	¥944,000	
	モスル	医薬品支援	¥1,839,650	¥0	
		管理費	¥35,097	¥68,000	
	アンマン	患者支援	¥2,822,760	¥1,700,000	
		管理費	¥282,689	¥170,000	
	難民支援	救急車輸送費	¥0	¥850,000	スマイルから寄贈の救急車輸送費：10年度中に出航せず
		管理費	¥33,720	¥43,000	視察経費
	ＪＩＭ－ＮＥＴ会議		¥1,509,122	¥1,700,000	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥2,000,436	¥2,000,000	
		海外振込手数料	¥224,124	¥230,000	
		為替差損	¥1,711,627	¥0	
海外プロジェクト計			¥66,558,762	¥64,903,000	
国内	広告宣伝費		¥1,172,814	¥1,200,000	印刷費、ｲﾍﾞﾝﾄ経費なども含む
	チョコ募金経費		¥20,684,910	¥22,775,000	
	物販購入費		¥420,059	¥420,000	
	アドボカシー経費		¥502,648	¥500,000	
	国内ネットワーク事業		¥30,600	¥30,000	
	東日本大震災支援	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費		¥9,000,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費¥6,500,000、要員派遣費¥2,500,000
		管理費		¥6,000,000	人件費¥4,500,000、交通費¥1,000,000、諸経費¥500,000
国内プロジェクト計			¥22,811,031	¥39,925,000	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,406,000	¥1,406,000	
	事務所光熱費		¥123,545	¥124,000	
	通信費		¥900,181	¥900,000	郵便メール便、 電話･ネット等
	備品・消耗品		¥1,143,851	¥1,000,000	
	人件費		¥8,028,178	¥8,000,000	正規スタッフ2人、パート1人
	通勤費・交通費・国内出張費		¥1,560,762	¥1,600,000	
	記録・資料費		¥4,355	¥5,000	
	荷造り運賃費		¥41,120	¥50,000	
	振込手数料		¥99,220	¥100,000	
	管理諸費		¥295,500	¥300,000	税理士顧問料
	緊急対応費		¥503,600	¥1,000,000	
管理費計			¥14,106,312	¥14,485,000	
支出計			¥103,476,105	¥119,313,000	

期末収支差額	¥-3,340,000
2011年度　期首繰越金	¥77,644,259
2012年度　期末繰越金予想	¥74,304,259

2011年度 JIM-NET 予算書

収入の部

項目	2010決算額	2011予算額	内訳
会費	¥5,723,160	¥6,600,000	
一般寄付	¥6,775,234	¥5,000,000	収益の10%をOHに計上
東日本大震災支援募金		¥15,000,000	5月17日現在で¥12,058,394
チョコ募金	¥60,472,780	¥69,070,000	
構成団体拠出金	¥31,248,912	¥19,200,000	薬品支援、JIM-NET会議、難民支援、事務運営などへの拠出金
物品・書籍販売	¥776,604	¥500,000	
絵画展収入	¥252,400	¥300,000	
雑収入	¥219,650	¥300,000	イベント収入・情報提供料など
受取利息収入	¥2,915	¥3,000	
収入計	¥105,471,655	¥115,973,000	

※内訳にあるOHとは事務運営費（人件費、交通費、通信費、荷造り運賃などを指す）

支出の部

項目			2010決算額	2011予算額	内訳
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥2,970,448	¥4,080,000	
		機材消耗品		¥4,250,000	
		院内学級支援	¥458,099	¥408,000	
		感染症対策	¥5,607,846	¥3,754,000	
		管理費	¥4,010,603	¥5,680,000	
	バスラ	医薬品支援	¥10,483,813	¥10,200,000	
		研修	¥740,544	¥502,000	医師の日本での研修
		患者支援	¥4,534,820	¥4,590,000	貧困者交通費、ｲﾗﾝでの治療
		院内学級支援	¥490,248	¥553,000	誕生パーティ、遠足、文具、美術講師費、展示会費用等
		管理費	¥1,345,076	¥1,403,000	
	バグダッド	医薬品支援	¥19,976,423	¥18,360,000	
		機材消耗品	¥4,534,579	¥2,125,000	
		患者支援		¥468,000	
		院内学級支援		¥825,000	
		管理費	¥947,038	¥944,000	
	モスル	医薬品支援	¥1,839,650	¥0	
		管理費	¥35,097	¥68,000	
	アンマン	患者支援	¥2,822,760	¥1,700,000	
		管理費	¥282,689	¥170,000	
	難民支援	救急車輸送費	¥0	¥850,000	スマイルから寄贈の救急車輸送費：10年度中に出航せず
		管理費	¥33,720	¥43,000	視察経費
	ＪＩＭ－ＮＥＴ会議		¥1,509,122	¥1,700,000	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥2,000,436	¥2,000,000	
		海外振込手数料	¥224,124	¥230,000	
		為替差損	¥1,711,627	¥0	
海外プロジェクト計			¥66,558,762	¥64,903,000	
国内	広告宣伝費		¥1,172,814	¥1,200,000	印刷費、ｲﾍﾞﾝﾄ経費なども含む
	チョコ募金経費		¥20,684,910	¥22,775,000	
	物販購入費		¥420,059	¥420,000	
	アドボカシー経費		¥502,648	¥500,000	
	国内ネットワーク事業		¥30,600	¥30,000	
	東日本大震災支援	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費		¥9,000,000	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ費¥6,500,000、要員派遣費¥2,500,000
		管理費		¥6,000,000	人件費¥4,500,000、交通費¥1,000,000、諸経費¥500,000
国内プロジェクト計			¥22,811,031	¥39,925,000	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,406,000	¥1,406,000	
	事務所光熱費		¥123,545	¥124,000	
	通信費		¥900,181	¥900,000	郵便メール便、 電話・ネット等
	備品・消耗品		¥1,143,851	¥1,000,000	
	人件費		¥8,028,178	¥8,000,000	正規スタッフ2人、パート1人
	通勤費・交通費・国内出張費		¥1,560,762	¥1,600,000	
	記録・資料費		¥4,355	¥5,000	
	荷造り運賃費		¥41,120	¥50,000	
	振込手数料		¥99,220	¥100,000	
	管理諸費		¥295,500	¥300,000	税理士顧問料
	緊急対応費		¥503,600	¥1,000,000	
管理費計			¥14,106,312	¥14,485,000	
支出計			¥103,476,105	¥119,313,000	

期末収支差額	¥-3,340,000
2011年度　期首繰越金	¥77,644,259
2012年度　期末繰越金予想	¥74,304,259

2010年度 JIM-NET 決算書

収入の部

項目	2010予算額	2010決算額	内訳
会費	¥6,600,000	¥5,723,160	
一般寄付	¥5,000,000	¥6,775,234	収益の10%をOHに計上
チョコ募金	¥60,000,000	¥60,472,780	
構成団体拠出金	¥27,300,000	¥31,248,912	薬品支援、JIM-NET会議、事務所運営などへの拠出金
物品・書籍販売	¥1,000,000	¥776,604	
絵画展収入	¥600,000	¥252,400	
雑収入	¥200,000	¥219,650	イベント収入・情報提供料など
受取利息収入	¥10,000	¥2,915	
収入計	¥100,710,000	¥105,471,655	

※内訳にあるOHとは事務運営費(人件費、交通費、通信費、荷造り運賃などを指す)

支出の部

項目			2010予算額	2010決算額	内訳
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥5,700,000	¥2,970,448	
		院内学級支援	¥675,830	¥458,099	
		感染症対策	¥5,874,800	¥5,607,846	
		管理費	¥2,401,600	¥4,010,603	
	バスラ	医薬品支援	¥11,400,000	¥10,483,813	
		研修	¥351,500	¥740,544	医師の日本での研修
		患者支援	¥3,990,000	¥4,534,820	貧困者交通費、イランでの治療
		院内学級支援	¥1,187,500	¥490,248	誕生パーティ、遠足、文具、美術講師費、展示会費用等
		管理費	¥1,459,200	¥1,345,076	
	バグダッド	医薬品支援	¥22,800,000	¥19,976,423	
		機材消耗品	¥4,750,000	¥4,534,579	
		管理費	¥798,000	¥947,038	
	モスル	医薬品支援	¥4,275,000	¥1,839,650	
		管理費	¥76,000	¥35,097	
	アンマン	患者支援	¥4,275,000	¥2,822,760	
		管理費	¥353,400	¥282,689	アンマン事務所家賃、光熱費
	難民支援	救急車輸送費	¥950,000	¥0	スマイルから寄贈の救急車輸送費:10年度中に出航せず
		管理費	¥171,000	¥33,720	視察経費
	JIM－NET会議		¥2,000,000	¥1,509,122	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥227,109	¥2,000,436	
		海外振込手数料	¥13,365	¥224,124	
		為替差損	¥568,231	¥1,711,627	
海外プロジェクト計			¥74,297,535	¥66,558,762	
国内	広告宣伝費		¥1,066,000	¥1,172,814	印刷費、イベント経費なども含む
	チョコ募金経費		¥15,000,000	¥20,684,910	計画していたコールセンターに頼むことができず、計画変更があり
	物販購入費		¥6,000,000	¥420,059	
	アドボカシー経費		¥200,000	¥502,648	NPTに向けた英文パンフレット作成。ポスター作成、人材派遣交通費等
	国内ネットワーク事業		¥40,000	¥30,600	JANIC+劣化ウラン市民ネット
国内プロジェクト計			¥22,306,000	¥22,811,031	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,296,900	¥1,406,000	
	事務所光熱費		¥113,692	¥123,545	
	通信費		¥581,442	¥900,181	郵便メール便(¥402,985)、電話・ネット等(¥497,196)
	備品・消耗品		¥694,006	¥1,143,851	
	人件費		¥7,583,030	¥8,028,178	
	通勤費・交通費・国内出張費		¥1,261,275	¥1,560,762	
	記録・資料費		¥4,930	¥4,355	
	荷造り運賃費		¥68,150	¥41,120	
	振込手数料		¥164,428	¥99,220	
	管理諸費		¥246,250	¥295,500	税理士顧問料
	緊急対応費		¥600,000	¥503,600	
管理費計			¥12,614,103	¥14,106,312	
支出計			¥109,217,638	¥103,476,105	

期末収支差額	¥1,995,550
2010年度 期首繰越金	¥74,716,128
2010年度 期末繰越金	¥76,711,678 *

*繰越金の大半は、バレンタイン・チョコ募金であるが、年度末(1－3月)に集金され、次年度のプロジェクトで使い切る。

2010年度 JIM-NET 決算書

収入の部

項目	2010予算額	2010決算額	内訳
会費	¥6,600,000	¥5,723,160	
一般寄付	¥5,000,000	¥6,775,234	収益の10%をOHに計上
チョコ募金	¥60,000,000	¥60,472,780	
構成団体拠出金	¥27,300,000	¥31,248,912	薬品支援、JIM-NET会議、事務所運営などへの拠出金
物品・書籍販売	¥1,000,000	¥776,604	
絵画展収入	¥600,000	¥252,400	
雑収入	¥200,000	¥219,650	イベント収入・情報提供料など
受取利息収入	¥10,000	¥2,915	
収入計	¥100,710,000	¥105,471,655	

※内訳にあるOHとは事務運営費(人件費、交通費、通信費、荷造り運賃などを指す)

支出の部

項目			2010予算額	2010決算額	内訳
海外プロジェクト	アルビル	医薬品支援	¥5,700,000	¥2,970,448	
		院内学級支援	¥675,830	¥458,099	
		感染症対策	¥5,874,800	¥5,607,846	
		管理費	¥2,401,600	¥4,010,603	
	バスラ	医薬品支援	¥11,400,000	¥10,483,813	
		研修	¥351,500	¥740,544	医師の日本での研修
		患者支援	¥3,990,000	¥4,534,820	貧困者交通費、イランでの治療
		院内学級支援	¥1,187,500	¥490,248	誕生パーティ、遠足、文具、美術講師費、展示会費用等
		管理費	¥1,459,200	¥1,345,076	
	バグダッド	医薬品支援	¥22,800,000	¥19,976,423	
		機材消耗品	¥4,750,000	¥4,534,579	
		管理費	¥798,000	¥947,038	
	モスル	医薬品支援	¥4,275,000	¥1,839,650	
		管理費	¥76,000	¥35,097	
	アンマン	患者支援	¥4,275,000	¥2,822,760	
		管理費	¥353,400	¥282,689	アンマン事務所家賃、光熱費
	難民支援	救急車輸送費	¥950,000	¥0	スマイルから寄贈の救急車輸送費:10年度中に出航せず
		管理費	¥171,000	¥33,720	視察経費
	JIM－NET会議		¥2,000,000	¥1,509,122	
管理費	その他管理費	現地出張費	¥227,109	¥2,000,436	
		海外振込手数料	¥13,365	¥224,124	
		為替差損	¥568,231	¥1,711,627	
海外プロジェクト計			¥74,297,535	¥66,558,762	
国内	広告宣伝費		¥1,066,000	¥1,172,814	印刷費、イベント経費なども含む
	チョコ募金経費		¥15,000,000	¥20,684,910	計画していたコールセンターに頼むことができず、計画変更があり
	物販購入費		¥6,000,000	¥420,059	
	アドボカシー経費		¥200,000	¥502,648	NPTに向けた英文パンフレット作成。ポスター作成、人材派遣交通費等
	国内ネットワーク事業		¥40,000	¥30,600	JANIC+劣化ウラン市民ネット
国内プロジェクト計			¥22,306,000	¥22,811,031	
管理費	事務所家賃・保険費		¥1,296,900	¥1,406,000	
	事務所光熱費		¥113,692	¥123,545	
	通信費		¥581,442	¥900,181	郵便メール便(¥402,985)、電話・ネット等(¥497,196)
	備品・消耗品		¥694,006	¥1,143,851	
	人件費		¥7,583,030	¥8,028,178	
	通勤費・交通費・国内出張費		¥1,261,275	¥1,560,762	
	記録・資料費		¥4,930	¥4,355	
	荷造り運賃費		¥68,150	¥41,120	
	振込手数料		¥164,428	¥99,220	
	管理諸費		¥246,250	¥295,500	税理士顧問料
	緊急対応費		¥600,000	¥503,600	
管理費計			¥12,614,103	¥14,106,312	
支出計			¥109,217,638	¥103,476,105	

期末収支差額	¥1,995,550
2010年度 期首繰越金	¥74,716,128
2010年度 期末繰越金	¥76,711,678 *

*繰越金の大半は、バレンタイン・チョコ募金であるが、年度末(1－3月)に集金され、次年度のプロジェクトで使い切る。

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

JIM-NET
全事業所

[税込]（単位：円）
2011年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		未払金	33,503
東京 現金	327,934	前受金	540,211
現地 現金	5,006,173	預り金	54,100
普通 預金	71,388,100	源泉税預かり金	(54,100)
八十二銀行	(8,187,157)	長期支援準備金	5,000,000
三井住友銀行	(28,790,984)	流動負債 計	5,627,814
郵便局94945	(13,706,722)	**負債の部合計**	**5,627,814**
郵便局チョコ	(20,703,237)	**正味財産の部**	
現金・預金 計	76,722,207	【正味財産】	
（その他流動資産）		正味 財産	71,487,173
前払 費用	200,000	（うち当期正味財産増加額）	41,995,550
仮払金	192,780	正味財産 計	71,487,173
その他流動資産 計	392,780	**正味財産の部合計**	**71,487,173**
流動資産合計	77,114,987		
資産の部合計	**77,114,987**	**負債・正味財産の部合計**	**77,114,987**

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

JIM-NET
全事業所

[税込]（単位：円）
2011年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		未払金	33,503
東京 現金	327,934	前受金	540,211
現地 現金	5,006,173	預り金	54,100
普通 預金	71,388,100	源泉税預かり金	(54,100)
八十二銀行	(8,187,157)	長期支援準備金	5,000,000
三井住友銀行	(28,790,984)	流動負債 計	5,627,814
郵便局94945	(13,706,722)	**負債の部合計**	**5,627,814**
郵便局チョコ	(20,703,237)	**正味財産の部**	
現金・預金 計	76,722,207	【正味財産】	
（その他流動資産）		正味 財産	71,487,173
前払 費用	200,000	（うち当期正味財産増加額）	41,995,550
仮払金	192,780	正味財産 計	71,487,173
その他流動資産 計	392,780	**正味財産の部合計**	**71,487,173**
流動資産合計	77,114,987		
資産の部合計	**77,114,987**	**負債・正味財産の部合計**	**77,114,987**

3）日本とイラクの絆

今回の震災を受けて、イラク、クルドからの、応援があり、JIM-NETとしては、文化交流的なイベントなどにも積極的に協力し、絆を深めることに努力する。

【国内活動】

Ⅰ．組織管理業務

1）労務環境の整備：福利厚生（失業保険・有給休暇等）の見直しに着手

2）運営委員を中心とした連絡会議の設置：各参加団体に合った参加の仕方を再検討

3）法人格取得：NPO法人化へ向けての調査と準備を開始

Ⅱ．国内プロジェクト

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

イラクが現在抱える問題、それに対する日本の関わり方、今後の在り様について、中東に広がる民主化の流れをとらえつつ、より深化した考察に基づく発言を目指す。

○劣化ウラン

2010年度、クウェートの調査を行なった流れを受け、今後も引き続きICBUWなどと協力し政策提言などを行っていく。国内では、国会内での啓発活動に引き続き注力する。

○難民

UNHCRやJ-FUN（UNHCRと難民支援を行うNGOの協議会）と協力しながら、国内での発信を続ける。6月20日の難民の日前後には、東京や沖縄での絵画展・写真展などイベントを企画する。

2）広報

○HPおよび団体資料・会報

情報更新のスピードアップに務めるとともに、がん・白血病など専門的な分野に関する用語集の作成等、内容の拡充を図る。

○絵画

絵画セットのリニューアル、データ化を進めつつ、パンフレットの作成にも着手する。

○教育

小学生から高校生を対象に講師を派遣するほか、修学旅行生も積極的に受け入れる。

3）募金

原材料価格の上昇や震災の影響など募金獲得の環境は厳しいが、これまでの支援が継続できるよう、2011年度はチョコ数を前年度より1万個増の13万個口を目標とする。また引き続き事務局の体制強化にも注力。クレジットカードによる募金の導入、HPでのショッピングカートの導入も検討する。

4）人材育成

イベントの手伝い、翻訳、入力作業等をしてくれるボランティアを積極的に募集するとともに、インターンの採用も検討する。一方、事務局員はスキルアップに向け積極的に外部研修等に参加する。

5）サポーター関係

支援者の皆さまと顔を合わせ、支援状況をご報告する機会として、懇親会の実施を検討する。

3）日本とイラクの絆

今回の震災を受けて、イラク、クルドからの、応援があり、JIM-NETとしては、文化交流的なイベントなどにも積極的に協力し、絆を深めることに努力する。

【国内活動】

Ⅰ．組織管理業務

1）労務環境の整備：福利厚生（失業保険・有給休暇等）の見直しに着手

2）運営委員を中心とした連絡会議の設置：各参加団体に合った参加の仕方を再検討

3）法人格取得：NPO法人化へ向けての調査と準備を開始

Ⅱ．国内プロジェクト

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

イラクが現在抱える問題、それに対する日本の関わり方、今後の在り様について、中東に広がる民主化の流れをとらえつつ、より深化した考察に基づく発言を目指す。

○劣化ウラン

2010年度、クウェートの調査を行なった流れを受け、今後も引き続きICBUWなどと協力し政策提言などを行っていく。国内では、国会内での啓発活動に引き続き注力する。

○難民

UNHCRやJ-FUN（UNHCRと難民支援を行うNGOの協議会）と協力しながら、国内での発信を続ける。6月20日の難民の日前後には、東京や沖縄での絵画展・写真展などイベントを企画する。

2）広報

○HPおよび団体資料・会報

情報更新のスピードアップに務めるとともに、がん・白血病など専門的な分野に関する用語集の作成等、内容の拡充を図る。

○絵画

絵画セットのリニューアル、データ化を進めつつ、パンフレットの作成にも着手する。

○教育

小学生から高校生を対象に講師を派遣するほか、修学旅行生も積極的に受け入れる。

3）募金

原材料価格の上昇や震災の影響など募金獲得の環境は厳しいが、これまでの支援が継続できるよう、2011年度はチョコ数を前年度より1万個増の13万個口を目標とする。また引き続き事務局の体制強化にも注力。クレジットカードによる募金の導入、HPでのショッピングカートの導入も検討する。

4）人材育成

イベントの手伝い、翻訳、入力作業等をしてくれるボランティアを積極的に募集するとともに、インターンの採用も検討する。一方、事務局員はスキルアップに向け積極的に外部研修等に参加する。

5）サポーター関係

支援者の皆さまと顔を合わせ、支援状況をご報告する機会として、懇親会の実施を検討する。

3）募金

チョコレート募金12万個分を達成。大幅な募金者の拡大は図らず事務局の体制強化に力を入れ、システム構築等の改善を進めた。電話受付業務も事務局内で対応した。

4）人材育成

ハウラのキャンドル企画、大学生によるチャリティークラブイベント、キルト展示など個人のアイデアを生かしたボランティアの協力を得ることができた。各参加団体からゲストを呼ぶダルダシャ(茶話会)も数回開催した。

5）サポーター関係

新規サポーターにはサポーターバッチを送るほか、継続者にはチョコ募金缶と同じデザインのシールを発送するなど、サポーターサービスの充実を図った。しかし、サポーター継続の比率は上がったものの、チョコ募金申込者以外の新規の入会は伸び悩んでいる。地方のサポーターチームは現在、札幌、函館、山形、栃木、浜松、奈良の6チーム。

6）国内緊急支援プロジェクト

東日本大震災後、山形のIVYと協力し、物資支援を行った。また河北地区での医療支援、石巻市での千人風呂プロジェクトを実施。

2011年度事業方針

東日本大震災後、しばらくの間は、イラク関連のプロジェクトも滞りました。「何か自分達に出来ることはないか」という気持ちで始めた石巻の支援も長期化し、イラク事業にも響いています。全体的に資金調達が厳しくなることから、イラクでは、新しい事業は行わず、予算では、20%の削減を目指します。

一方、今回の震災では、福島原発事故に伴う放射能汚染を深刻にとらえ、イラクでの経験や専門性、ネットワークなどを生かし、JIM-NETだからこそやらなければいけない活動にシフトしていきます。そのような国内での経験が、将来イラクで生かせるように活動すべきです。

また、今まで行ってきた、イラクのこども達の絵画を使った展示や、絵本作成、商品開発に関しては、日本を元気にする素材として、さらに力を入れていきます。

【海外活動】

1）ガン白血病支援

JIM-NETが支援している4箇所5病院に関して、前年度同等の医薬品支援、感染症対策、成分輸血消耗品を寄与する。アルビル事務所に関しては、プロジェクトマネージャーを常駐させ、プロジェクトの効率の良い運営の継続と整理、来年度に向けたフィジビリティ・スタディを実施する。医療関係者は、折に触れ短期派遣の予定。また、支援を開始した7年前と病院の増改築による設備や機材、薬の政府による支給率や、患者数など変ってきており、将来的な支援計画を作り直す時期に来ている。そこで、今年度より、病院状況の調査を開始し、2012年度には、調査結果に基づく支援計画を作成する予定。

各地域の病院の重点目標は以下のとおり。

○バグダッド：先端医療の導入をこころみ、骨髄移植を5年後に達成する目標を立てたが、バグダッドの病院を訪問したところ、予想以上に設備が悪く病院の増改築とあわせて計画を作りなおす必要がある。信州大学、JCFと今後も話会いながら進めていくが、JIM-NETは、むしろバスラので経験を生かして院内学級の開催及び、アンバール地区の患者に対し、交通費の支援を開始する。

○バスラ：病院が新しくなり、清潔な病院になったが、医薬品の不足は続く。機材に関しては、最新鋭のものが導入されたが、技術的な問題や消耗品の不足などで動いていないものが多いという。原因究明のための調査を行う。

○アルビル：感染症対策に関しては、日本から、環境クロスやドレッシングテープ、など必要なものを供与し、使い方を徹底させる。作業標準などをマニュアル化する。

2）難民支援

救急車をマフムールキャンプへ送る。トルコ系クルド人のキャンプなので、今後どうかかわるか調査を行う。

3）募金
　チョコレート募金12万個分を達成。大幅な募金者の拡大は図らず事務局の体制強化に力を入れ、システム構築等の改善を進めた。電話受付業務も事務局内で対応した。
4）人材育成
　ハウラのキャンドル企画、大学生によるチャリティークラブイベント、キルト展示など個人のアイデアを生かしたボランティアの協力を得ることができた。各参加団体からゲストを呼ぶダルダシャ(茶話会)も数回開催した。
5）サポーター関係
　新規サポーターにはサポーターバッチを送るほか、継続者にはチョコ募金缶と同じデザインのシールを発送するなど、サポーターサービスの充実を図った。しかし、サポーター継続の比率は上がったものの、チョコ募金申込者以外の新規の入会は伸び悩んでいる。地方のサポーターチームは現在、札幌、函館、山形、栃木、浜松、奈良の6チーム。
6）国内緊急支援プロジェクト
　東日本大震災後、山形のIVYと協力し、物資支援を行った。また河北地区での医療支援、石巻市での千人風呂プロジェクトを実施。

2011年度事業方針

　東日本大震災後、しばらくの間は、イラク関連のプロジェクトも滞りました。「何か自分達に出来ることはないか」という気持ちで始めた石巻の支援も長期化し、イラク事業にも響いています。全体的に資金調達が厳しくなることから、イラクでは、新しい事業は行わず、予算では、20%の削減を目指します。
　一方、今回の震災では、福島原発事故に伴う放射能汚染を深刻にとらえ、イラクでの経験や専門性、ネットワークなどを生かし、JIM-NETだからこそやらなければいけない活動にシフトしていきます。そのような国内での経験が、将来イラクで生かせるように活動すべきです。
　また、今まで行ってきた、イラクのこども達の絵画を使った展示や、絵本作成、商品開発に関しては、日本を元気にする素材として、さらに力を入れていきます。

【海外活動】
1）ガン白血病支援
　JIM-NETが支援している4箇所5病院に関して、前年度同等の医薬品支援、感染症対策、成分輸血消耗品を寄与する。アルビル事務所に関しては、プロジェクトマネージャーを常駐させ、プロジェクトの効率の良い運営の継続と整理、来年度に向けたフィジビリティ・スタディを実施する。医療関係者は、折に触れ短期派遣の予定。また、支援を開始した7年前と病院の増改築による設備や機材、薬の政府による支給率や、患者数など変ってきており、将来的な支援計画を作り直す時期に来ている。そこで、今年度より、病院状況の調査を開始し、2012年度には、調査結果に基づく支援計画を作成する予定。
　各地域の病院の重点目標は以下のとおり。
○バグダッド：先端医療の導入をこころみ、骨髄移植を5年後に達成する目標を立てたが、バグダッドの病院を訪問したところ、予想以上に設備が悪く病院の増改築とあわせて計画を作りなおす必要がある。信州大学、JCFと今後も話会いながら進めていくが、JIM-NETは、むしろバスラので経験を生かして院内学級の開催及び、アンバール地区の患者に対し、交通費の支援を開始する。
○バスラ：病院が新しくなり、清潔な病院になったが、医薬品の不足は続く。機材に関しては、最新鋭のものが導入されたが、技術的な問題や消耗品の不足などで動いていないものが多いという。原因究明のための調査を行う。
○アルビル：感染症対策に関しては、日本から、環境クロスやドレッシングテープ、など必要なものを供与し、使い方を徹底させる。作業標準などをマニュアル化する。
2）難民支援
　救急車をマフムールキャンプへ送る。トルコ系クルド人のキャンプなので、今後どうかかわるか調査を行う。

2）患者支援（移送）

イラクでは、放射線治療、骨髄移植が受けられない状況にある。

放射線治療に関しては、バスラからイランの病院へ、5名の患者を移送し治療費を補填した。

骨髄移植はヨルダンのキングフセインがんセンターで実施、一名あたり、1,000万円程度かかるが、キングフセインガン基金へ拠出することで、4名の患者の骨髄移植あるいはその後の化学療法の治療費の一部を負担した。しかしながら、4名が全員死亡、死亡原因は、イラクへの一時帰国中に様態が悪化したケースが大半を占めている。

3）JIM-NET会議

毎年2月に日本の医師とイラクの医師が集まり会議を開催。今年度は、信州大学から坂下一夫医師が参加し、遺伝子解析に関して講演を行った。単なる調整会議から学会形式に移行してきており医師たちのモチベーションも高まっている。

4）難民支援

シリア国境付近のアルワリード難民キャンプには、イラク戦争後迫害を受けるようになった、イラク国内に居たイラン系クルド難民、イラン難民、パレスチナ難民がいる。JIM-NETは、設立当初から、JVCやスマイルこどもクリニック、JCFと一緒に、国境付近の難民支援を行ってきた。2010年度は、日本から救急車を供与する予定だったが、UNHCRからの要請で、北イラクのマフムール難民キャンプへ変更。しかし、東日本大震災の影響で、輸送船の手配が送れ、次年度に持ち越しとなった。

【国内活動】

Ⅰ．組織管理業務

1）労務環境の整備：労働規約の制定

2）運営委員との関係強化：各参加団体の紹介記事をJIM-NET便りに掲載することから着手

3）事務局員の増員：現地スタッフ、事務局スタッフ各1名を増員

Ⅱ．国内プロジェクト

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

政策提言、出版など積極的に参画。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」における活動では、署名の管理や事務局作業に従事した。

○劣化ウラン

ニューヨークでの5月のNPT再検討会議、10月の国連総会第一委員会において、ICBUWと共にロビー活動を行う。また、クウェートの劣化ウランの調査にも着手した。NPT再検討会議および劣化ウランの調査については、ICBUWなどと一緒に外務省へ提出し提言、議員学習会などを実施した。

○難民

浜松のショッピングモールで開催予定だった難民写真展・ライブが会場の都合で急遽中止となり、カタログハウスで1日だけの写真展と報告会の開催となったが、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）およびUNFPA（国連人口基金）の協力を得ることができた。

2）広報

○HPおよび団体資料・会報

HPについては、外注することにより刷新を図ったが、より閲覧しやすくするための工夫や過去データの移行など、引き続き今後の課題を有している。メールマガジン登録については、チョコ募金のHP受付フォームに登録希望項目を追加したことにより、受信者が劇的に増加。2千人余りが登録している。

○絵画

貸出用絵画セットの見直しを実施。「白血病と闘う子どもたち」を「戦火の爪あとに生きる」としてリニューアル。またHPでサンプルが閲覧可能となるなようにデータ化を進めている。

○教育

学校などの教育現場へ講師を派遣するほか、東京へ来る修学旅行生をJIM-NETの事務所へ招き、活動の紹介などをおこなった。

2）患者支援（移送）

イラクでは、放射線治療、骨髄移植が受けられない状況にある。

放射線治療に関しては、バスラからイランの病院へ、5名の患者を移送し治療費を補填した。

骨髄移植はヨルダンのキングフセインがんセンターで実施、一名あたり、1,000万円程度かかるが、キングフセインガン基金へ拠出することで、4名の患者の骨髄移植あるいはその後の化学療法の治療費の一部を負担した。しかしながら、4名が全員死亡、死亡原因は、イラクへの一時帰国中に様態が悪化したケースが大半を占めている。

3）JIM-NET会議

毎年2月に日本の医師とイラクの医師が集まり会議を開催。今年度は、信州大学から坂下一夫医師が参加し、遺伝子解析に関して講演を行った。単なる調整会議から学会形式に移行してきており医師たちのモチベーションも高まっている。

4）難民支援

シリア国境付近のアルワリード難民キャンプには、イラク戦争後迫害を受けるようになった、イラク国内に居たイラン系クルド難民、イラン難民、パレスチナ難民がいる。JIM-NETは、設立当初から、JVCやスマイルこどもクリニック、JCFと一緒に、国境付近の難民支援を行ってきた。2010年度は、日本から救急車を供与する予定だったが、UNHCRからの要請で、北イラクのマフムール難民キャンプへ変更。しかし、東日本大震災の影響で、輸送船の手配が送れ、次年度に持ち越しとなった。

【国内活動】

Ⅰ．組織管理業務

1）労務環境の整備：労働規約の制定

2）運営委員との関係強化：各参加団体の紹介記事をJIM-NET便りに掲載することから着手

3）事務局員の増員：現地スタッフ、事務局スタッフ各1名を増員

Ⅱ．国内プロジェクト

1）政策提言・啓発活動

○イラク戦争検証

政策提言、出版など積極的に参画。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」における活動では、署名の管理や事務局作業に従事した。

○劣化ウラン

ニューヨークでの5月のNPT再検討会議、10月の国連総会第一委員会において、ICBUWと共にロビー活動を行う。また、クウェートの劣化ウランの調査にも着手した。NPT再検討会議および劣化ウランの調査については、ICBUWなどと一緒に外務省へ提出し提言、議員学習会などを実施した。

○難民

浜松のショッピングモールで開催予定だった難民写真展・ライブが会場の都合で急遽中止となり、カタログハウスで1日だけの写真展と報告会の開催となったが、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）およびUNFPA（国連人口基金）の協力を得ることができた。

2）広報

○HPおよび団体資料・会報

HPについては、外注することにより刷新を図ったが、より閲覧しやすくするための工夫や過去データの移行など、引き続き今後の課題を有している。メールマガジン登録については、チョコ募金のHP受付フォームに登録希望項目を追加したことにより、受信者が劇的に増加。2千人余りが登録している。

○絵画

貸出用絵画セットの見直しを実施。「白血病と闘う子どもたち」を「戦火の爪あとに生きる」としてリニューアル。またHPでサンプルが閲覧可能となるなようにデータ化を進めている。

○教育

学校などの教育現場へ講師を派遣するほか、東京へ来る修学旅行生をJIM-NETの事務所へ招き、活動の紹介などをおこなった。

2010年度事業報告

2010年3月7日、イラクでは国民議会選挙が行われ、アラウィ率いるイラキアが第一党に、マリキ率いる法治国家連合は第二党になりました。組閣にあたっては、約9か月の混乱を経て、マリキ首相が再選しました。一方アメリカは、8月末に、軍の大半を撤退させ、戦闘任務の終了を宣言しました。2011年に入ってからは、チュニジアに始まった中東諸国の民主化の流れがイラクにも押し寄せ、汚職の防止と、電気、水などのインフラ整備や雇用を求めたデモが頻発するようになりました。今まで比較的に安定していたクルド地区でも、スレイマニアなどでデモが起こり死者も出ています。

我々が支援を行っている小児ガンに関しては、各病院で患者数が増えていますが、政治の空白が続いたために、保健省のサービスは、あまり改善されませんでした。しかし、バスラでは、最新鋭の設備を備えた「バスラ子ども病院」が開院、アルビルやモスルでも新しいガン病棟の建設が具体化しています。

こうした中、JIM-NETの活動は、2005年に開設したヨルダンのアンマン事務所を閉鎖し、拠点を完全にアルビルに移しました。日本人看護師を常駐させることで現地医師や看護師らの信頼関係も深まりました。2009年度は、治安等の懸念から、安全対策に力を入れ、出来る限り目立たないよう心がけましたが、2010年度は、我々の活動を、より多くの人たちに理解してもらい、現地の協力者（行政、UN，NGO等）を増やすことに心がけました。7月には、バスラや、バグダッドの患者を招きサマーキャンプをおこないました。地元のTVや新聞も大きく取り上げてくれました。

また、政策提言活動としては、ウラン兵器禁止のための国際的な市民のネットワークICBUWに協力し、5月のNPT再検討会議でのサイドイベント、10月の国連総会に向けたロビー活動に、スタッフを派遣しました。また、2011年1月17日は、湾岸戦争20周年にあたり、クウェートに調査団を派遣し、劣化ウランの取り組みなどの調査をおこない、国会議員学習会で報告しました。イラク戦争の検証に関しては、イラク戦争の検証を求めるネットワークを支え、ブックレットの編纂に加わりました。

イラクに関しての報道が少なくなり、イベントなどの集客には苦労しました。活動資金は、参加団体の童話館、カタログハウス、スマイルこどもクリニックからの寄付と、チョコ募金が中心です。チョコ募金は、イラクのガンの子ども達の絵を介し、障害者福祉作業所や、町工場を巻き込み、日本社会にやさしい募金活動を目指しました。地方の産業の活性化の一助になればと思い、今治タオルとコラボした商品も開発しました。東京事務所の体制強化も進み、スタッフの待遇改善も実現する事が出来ました。

【海外活動】

1）ガン・白血病支援

ガン・白血病は、まず化学療法をきちんと行うことを要する。そのために必要なのは、抗がん剤などの薬、感染症対策、適切な輸血である。JIM-NETは、バグダッド、バスラ、アルビル、モスルの4箇所5病院に、必要な医薬品の供与、感染症対策の指導、成分輸血装置の消耗品供与を実施。2010年度は、地区ごとの病院の強みを生かし、モデル病院化するということに特に注力した。モデル病院化した後は、イラク間での技術移転や、協力関係を強化していく。

○バグダッドは、最先端技術の導入→信州大学とＪＣＦが中心になり、遺伝子解析技術を導入し、5年後の骨髄移植を目指す。JIM-NETは、ロジ面でのサポート。

○バスラは、地域社会を巻き込んだ、総合的なケア病院とする。貧困患者の交通費の補填、院内学級による補習。

○アルビルは、感染症対策に秀でた病院として、他病院からの研修受入れなどを行う。

→これらの特徴をイラク間で技術移管しあう。

医薬品に関しては、モスルは治安悪化により、支援がしばしば中断した以外は、ほぼ前年度と同じレベルの支援を達成することができた。アルビルは、日本人スタッフを常駐させたため、きめ細かい支援ができ、感染症対策の成果が出た。ナナカリー病院のイニシアティブでバグダッドとバスラから看護婦を招聘して研修を実施。院内学級に関しては、アルビルでサマーキャンプを行ない、バスラのスタッフが中心になり、バグダッドやアルビルのスタッフを指導するなど、イラク国内での技術交流に、一歩踏み出した。

2010年度事業報告

2010年3月7日、イラクでは国民議会選挙が行われ、アラウィ率いるイラキアが第一党に、マリキ率いる法治国家連合は第二党になりました。組閣にあたっては、約9か月の混乱を経て、マリキ首相が再選しました。一方アメリカは、8月末に、軍の大半を撤退させ、戦闘任務の終了を宣言しました。2011年に入ってからは、チュニジアに始まった中東諸国の民主化の流れがイラクにも押し寄せ、汚職の防止と、電気、水などのインフラ整備や雇用を求めたデモが頻発するようになりました。今まで比較的に安定していたクルド地区でも、スレイマニアなどでデモが起こり死者も出ています。

我々が支援を行っている小児ガンに関しては、各病院で患者数が増えていますが、政治の空白が続いたために、保健省のサービスは、あまり改善されませんでした。しかし、バスラでは、最新鋭の設備を備えた「バスラ子ども病院」が開院、アルビルやモスルでも新しいガン病棟の建設が具体化しています。

こうした中、JIM-NETの活動は、2005年に開設したヨルダンのアンマン事務所を閉鎖し、拠点を完全にアルビルに移しました。日本人看護師を常駐させることで現地医師や看護師らの信頼関係も深まりました。2009年度は、治安等の懸念から、安全対策に力を入れ、出来る限り目立たないよう心がけましたが、2010年度は、我々の活動を、より多くの人たちに理解してもらい、現地の協力者（行政、UN，NGO等）を増やすことに心がけました。7月には、バスラや、バグダッドの患者を招きサマーキャンプをおこないました。地元のTVや新聞も大きく取り上げてくれました。

また、政策提言活動としては、ウラン兵器禁止のための国際的な市民のネットワークICBUWに協力し、5月のNPT再検討会議でのサイドイベント、10月の国連総会に向けたロビー活動に、スタッフを派遣しました。また、2011年1月17日は、湾岸戦争20周年にあたり、クウェートに調査団を派遣し、劣化ウランの取り組みなどの調査をおこない、国会議員学習会で報告しました。イラク戦争の検証に関しては、イラク戦争の検証を求めるネットワークを支え、ブックレットの編纂に加わりました。

イラクに関しての報道が少なくなり、イベントなどの集客には苦労しました。活動資金は、参加団体の童話館、カタログハウス、スマイルこどもクリニックからの寄付と、チョコ募金が中心です。チョコ募金は、イラクのガンの子ども達の絵を介し、障害者福祉作業所や、町工場を巻き込み、日本社会にやさしい募金活動を目指しました。地方の産業の活性化の一助になればと思い、今治タオルとコラボした商品も開発しました。東京事務所の体制強化も進み、スタッフの待遇改善も実現する事が出来ました。

【海外活動】

1）ガン・白血病支援

ガン・白血病は、まず化学療法をきちんと行うことを要する。そのために必要なのは、抗がん剤などの薬、感染症対策、適切な輸血である。JIM-NETは、バグダッド、バスラ、アルビル、モスルの4箇所5病院に、必要な医薬品の供与、感染症対策の指導、成分輸血装置の消耗品供与を実施。2010年度は、地区ごとの病院の強みを生かし、モデル病院化するということに特に注力した。モデル病院化した後は、イラク間での技術移転や、協力関係を強化していく。

○バグダッドは、最先端技術の導入→信州大学とＪＣＦが中心になり、遺伝子解析技術を導入し、5年後の骨髄移植を目指す。JIM-NETは、ロジ面でのサポート。

○バスラは、地域社会を巻き込んだ、総合的なケア病院とする。貧困患者の交通費の補填、院内学級による補習。

○アルビルは、感染症対策に秀でた病院として、他病院からの研修受入れなどを行う。

→これらの特徴をイラク間で技術移管しあう。

医薬品に関しては、モスルは治安悪化により、支援がしばしば中断した以外は、ほぼ前年度と同じレベルの支援を達成することができた。アルビルは、日本人スタッフを常駐させたため、きめ細かい支援ができ、感染症対策の成果が出た。ナナカリー病院のイニシアティブでバグダッドとバスラから看護婦を招聘して研修を実施。院内学級に関しては、アルビルでサマーキャンプを行ない、バスラのスタッフが中心になり、バグダッドやアルビルのスタッフを指導するなど、イラク国内での技術交流に、一歩踏み出した。

JIM-NET参加団体（50音順）

【アラブの子どもとなかよくする会】(http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/)
1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アファーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(http://www.cataloghouse.co.jp/)
カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮しの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリのこどもたちへの支援は2008年まで18年間続けました。現在はドイツ平和村とイラクの子どもたちに薬や医療機器を送るための救援カンパを呼びかけ、2011年4月からは東日本大震災に関するカンパも呼びかけています。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(http://www.douwakan.co.jp/group/fund)
童話館は長崎にあるこどもの本の専門店です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援をしています。

【「サダコ」・虹基金】（「サダコ」・虹基ブログ http://sadakoniji.sblo.jp/）
「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児ガンで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm)
小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年開院された24時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。現在JIM-NETへスタッフを出向させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

【日本国際ボランティアセンター（JVC）】(http://www.ngo-jvc.net/)
JVCは、1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在はアジア・中東・アフリカの9つの国・地域で支援活動を行う認定NPO法人です。

【日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）】(http://jcf.ne.jp/)
JCFは、1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定NPO法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行なってきました。2004年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン(CADU-JP)】(http://www.cadu-jp.org/contents.html)
2003年10月、ドイツハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人に開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

JIM-NET参加団体（50音順）

【アラブの子どもとなかよくする会】(http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/)
1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アファーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

【カタログハウス基金】(http://www.cataloghouse.co.jp/)
カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮しの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリのこどもたちへの支援は2008年まで18年間続けました。現在はドイツ平和村とイラクの子どもたちに薬や医療機器を送るための救援カンパを呼びかけ、2011年4月からは東日本大震災に関するカンパも呼びかけています。

【子どもの平和と生存のための童話館基金】(http://www.douwakan.co.jp/group/fund)
童話館は長崎にあるこどもの本の専門店です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援をしています。

【「サダコ」・虹基金】（「サダコ」・虹基ブログ http://sadakoniji.sblo.jp/）
「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児ガンで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

【スマイルこどもクリニック】(http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm)
小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年開院された24時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。現在JIM-NETへスタッフを出向させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

【日本国際ボランティアセンター（JVC）】(http://www.ngo-jvc.net/)
JVCは、1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在はアジア・中東・アフリカの9つの国・地域で支援活動を行う認定NPO法人です。

【日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）】(http://jcf.ne.jp/)
JCFは、1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定NPO法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行なってきました。2004年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。

【劣化ウラン廃絶キャンペーン(CADU-JP)】(http://www.cadu-jp.org/contents.html)
2003年10月、ドイツハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人に開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

JIM-NETのあゆみ

1990年代半ば、イラクの子ども達の間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に使用された劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子ども達が、助かるはずの命を失っていきました。2003年のイラク戦争では、米英は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子ども達にとっては危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子ども達の窮状を救うための話し合いがもたれ、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちによりJIM-NETが立ち上げられました。

先進諸国では、近年、医療技術の進歩により小児がんの治療成績は向上し、最も多いとされる急性小児白血病は90%が治ると言われています。JIM-NETは、将来イラク国内で先進国並みの治療が可能となるよう支援を続けています。

組織体制（2011年3月末現在）

【役員】

現役員は以下の通り。

代表	鎌田實
事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	神尾京子
理事	谷山博史
監事	栗原郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ	2名（他パートタイムスタッフ3名、JIM-NET参加団体からの出向スタッフ1名）
アルビル事務所スタッフ	1名
イラク人現地スタッフ	2名

【サポーター】

ラナサポーター*	314名
一般サポーター**	802名

*ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

**一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充当されます。

JIM-NETのあゆみ

1990年代半ば、イラクの子ども達の間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に使用された劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子ども達が、助かるはずの命を失っていきました。2003年のイラク戦争では、米英は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子ども達にとっては危機的状況でした。2004年6月、来日したバスラ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子ども達の窮状を救うための話し合いがもたれ、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちによりJIM-NETが立ち上げられました。

先進諸国では、近年、医療技術の進歩により小児がんの治療成績は向上し、最も多いとされる急性小児白血病は90%が治ると言われています。JIM-NETは、将来イラク国内で先進国並みの治療が可能となるよう支援を続けています。

組織体制（2011年3月末現在）

【役員】

現役員は以下の通り。

代表	鎌田實
事務局長	佐藤真紀
理事	池住義憲
理事	井下俊
理事	鎌仲ひとみ
理事	神尾京子
理事	谷山博史
監事	栗原郁

【スタッフ】

東京事務所スタッフ	2名（他パートタイムスタッフ3名、JIM-NET参加団体からの出向スタッフ1名）
アルビル事務所スタッフ	1名
イラク人現地スタッフ	2名

【サポーター】

ラナサポーター*	314名
一般サポーター**	802名

*ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

**一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充当されます。

事務局長よりご挨拶

イラク戦争は、2003年3月20日に始まりました。

私達にとって、3月20日というのは特別な日です。日本は、イラク戦争を支持しました。イラクが大量破壊兵器を持っている。国際テロを支持している。サダム・フセインが圧政を敷いている、等の理由よりも、日本の国益のためなら、アメリカの武力行使を支持しなければならないという理由からではなかったでしょうか？日本国民の6割は、戦争には反対でしたが、そのことは国政には反映されませんでした。だから、3月20日は、日本の民主主義の敗北の日なのです。

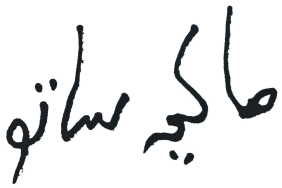
開戦から間もなく8年が経とうとしていた2011年3月11日、突然、地震と津波が日本を襲いました。死者と行方不明者は、23,176名に達しました。被災地の映像を見て、「何か自分達に出来ることはないのだろうか」という気持ちがわき起こり、石巻での緊急支援を開始しました。しかし、あまりに、大きな被害に言葉を失いました。そして、福島原発の事故。気がつくとイラクの放射能汚染をはるかに超えるレベルに達しています。

JIM-NETの中でも、日本が大変な時に、イラクどころではないだろうという意見もありました。

そんなある日、イラク大使館から、被災地を励ましに行きたいと連絡がありました。JIM-NETが石巻に設営した、お風呂の名前が、「希望の湯」だったこともあり、アラビア語で「希望」と書いた日本手ぬぐいを作り、配りました。2009年にガンで他界した少女、サブリーンが描いた絵も一緒にプリントしました。なぜなら、彼女の絵は「こんにちは」と話しかけているような力強さがあって元気に満ち溢れているからです。チョコ募金を始めたときも、この絵を見たひらめきからでした。この手ぬぐいを被災地の小学校で配ると、とても喜んでもらえました。「サブリーンが天国から応援してくれている。」そんな風に感じたのです。

私は、4月の終わりにバグダッドに入りました。7年ぶりでしたが、あまりにも復興が進んでいないのを見てびっくりしました。電気は未だに十分ではなく、下水も道路に流れています。2002年に会った子どもたちにも再会しました。9年経ってもう子どもとは呼べない年頃になっていました。それでも、目の輝きは失われていません。国は復興しなくても、子どもたちは成長します。日本でも同じだと思います。

イラクの子どもたち、日本の子どもたちが安心して暮らせる社会づくりに、
JIM-NETは、新たなチャレンジをしていきたいと思います。



日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
事務局長　佐藤真紀

事務局長よりご挨拶

イラク戦争は、2003年3月20日に始まりました。

私達にとって、3月20日というのは特別な日です。日本は、イラク戦争を支持しました。イラクが大量破壊兵器を持っている。国際テロを支持している。サダム・フセインが圧政を敷いている、等の理由よりも、日本の国益のためなら、アメリカの武力行使を支持しなければならないという理由からではなかったでしょうか？日本国民の6割は、戦争には反対でしたが、そのことは国政には反映されませんでした。だから、3月20日は、日本の民主主義の敗北の日なのです。

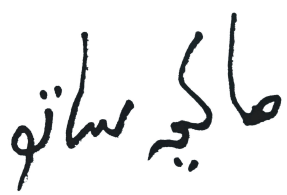
開戦から間もなく8年が経とうとしていた2011年3月11日、突然、地震と津波が日本を襲いました。死者と行方不明者は、23,176名に達しました。被災地の映像を見て、「何か自分達に出来ることはないのだろうか」という気持ちがわき起こり、石巻での緊急支援を開始しました。しかし、あまりに、大きな被害に言葉を失いました。そして、福島原発の事故。気がつくとイラクの放射能汚染をはるかに超えるレベルに達しています。

JIM-NETの中でも、日本が大変な時に、イラクどころではないだろうという意見もありました。

そんなある日、イラク大使館から、被災地を励ましに行きたいと連絡がありました。JIM-NETが石巻に設営した、お風呂の名前が、「希望の湯」だったこともあり、アラビア語で「希望」と書いた日本手ぬぐいを作り、配りました。2009年にガンで他界した少女、サブリーンが描いた絵も一緒にプリントしました。なぜなら、彼女の絵は「こんにちは」と話しかけているような力強さがあって元気に満ち溢れているからです。チョコ募金を始めたときも、この絵を見たひらめきからでした。この手ぬぐいを被災地の小学校で配ると、とても喜んでもらえました。「サブリーンが天国から応援してくれている。」そんな風に感じたのです。

私は、4月の終わりにバグダッドに入りました。7年ぶりでしたが、あまりにも復興が進んでいないのを見てびっくりしました。電気は未だに十分ではなく、下水も道路に流れています。2002年に会った子どもたちにも再会しました。9年経ってもう子どもとは呼べない年頃になっていました。それでも、目の輝きは失われていません。国は復興しなくても、子どもたちは成長します。日本でも同じだと思います。

イラクの子どもたち、日本の子どもたちが安心して暮らせる社会づくりに、JIM-NETは、新たなチャレンジをしていきたいと思います。



日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
事務局長 佐藤真紀